

トビウオ通信 (H27 第7号)

<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成27年度第2回日本海スルメイカ漁況予報》

平成27年7月27日に国立研究開発法人水産総合研究センター(日本海区水産研究所)より「平成27年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報¹⁾」が発表されました。今回はその概要と島根県沖でのこれまでのスルメイカ漁況を紹介します。

今後の見通し(平成27年8月~12月)のポイント

対象魚種：スルメイカ

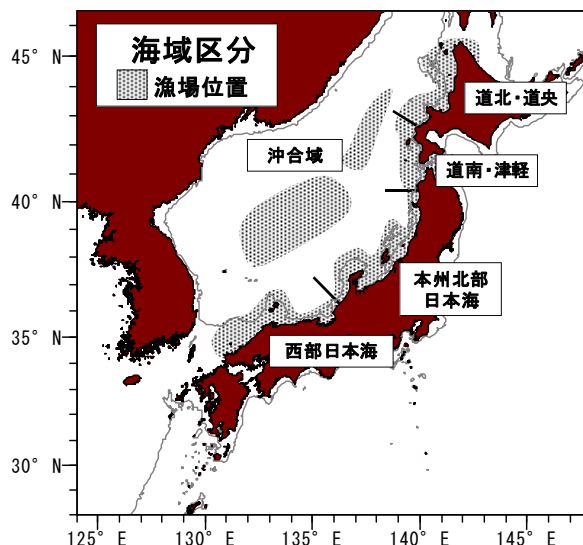
対象海域：日本海(道北・道央、道南・津軽、本州北部日本海、西部日本海、沖合域)

対象漁業：主にいか釣り漁業・小型いか釣り漁業

対象魚群：主に秋季発生系群、後半は冬季発生系群も含む

- (1) 来遊量：前年及び近年平均を下回る。
- (2) 漁期・漁場：
 - ・ 道北・道央では、道北で低調。
 - ・ 道南・津軽では、漁期後半に12月の漁獲量が多かった前年を下回るものの、近年平均並みに回復する。
 - ・ 本州北部日本海及び西部日本海では、今年も近年同様に漁場が形成されにくい。
 - ・ 沖合域においては、8月~9月は道北沖、11月以降は大和堆周辺海域に漁場が形成。

☞ 近年平均は最近5年間(平成22年~平成26年)の平均、前年は平成26年を示します。



日本海スルメイカ漁況予報の概要

平成27年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報では、表1のとおり5つの海域ごとに来遊量・漁況および漁期・漁場が予測されています。予報内容は、次の4つの情報に基づいています。

- (1) 平成27年6月下旬~7月上旬に実施されたスルメイカ(秋季発生系群)の日本海漁場一斉調査の結果
- (2) 平成27年6月までの日本海沿岸各地のスルメイカ漁況の経過

(3) 太平洋側のスルメイカ（冬季発生系群主体）の来遊状況²⁾

(4) 漁期前半（9月まで）の海況予報³⁾

表1 平成27年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報の内容

漁場	範囲	来遊量・漁況	漁期・漁場
道北・道央	宗谷～後志	前年及び近年平均を下回る。	道北で低調。
道南・津軽	渡島、檜山、青森県	前年及び近年平均を下回る。	漁期後半に12月の漁獲量が多かった前年を下回るものの、近年平均並みに回復する。
本州北部日本海	秋田県～石川県	前年及び近年平均を下回る。	今年も近年同様に漁場が形成されにくい。
西部日本海	福井県～長崎県	前年及び近年平均を下回る。	今年も近年同様に漁場が形成されにくい。
沖合域	日本海中央部	前年及び近年平均を下回る。	8月～9月は道北沖、11月以降は大和堆周辺海域に漁場が形成。

本紙では、島根県沖を含む「西部日本海」および「沖合域」に関する予報の詳細を紹介します。その他の海域については「平成27年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報¹⁾」をご覧ください。

(i) 西部日本海（福井県～長崎県）

予報対象期間（8～12月）の西部日本海では、10月以降に沖合から南下する群が漁獲対象となります。漁場一斉調査の結果では、資源量指数（釣り機1台1時間あたりのスルメイカ採集尾数の平均値）は前年および近年平均を下回りました。さらに近年は、秋季に高水温が続く傾向にあるため沿岸に魚群が来遊しにくく、好漁場が形成されにくいと考えられており、近年同様10月以降の漁獲量は伸びないと予測されています。

(ii) 沖合域（日本海中央部）

沖合域では従来、7月～12月にかけて大和堆付近が主漁場で、水温の高い8月下旬～9月には北海道沖の武蔵堆付近にも漁場が形成されてきました。しかし、近年は8月～11月に主に北海道周辺海域に漁場が形成され、大和堆付近は11月～12月にのみ漁場が形成される年が多くなっています。漁場一斉調査の結果では、資源量指数は前年および近年平均を下回ったことから、沖合域の漁況もは前年及び近年平均を下回ると予想されています。また、今期前半の水温が「やや高め」

と予測されているため、主漁場は近年同様8月～9月は道北沖、11月～12月は大和堆付近に形成されると予想されています。

島根県沖での漁況

主要3港（浜田、恵曇、西郷）における小型イカ釣（5トン以上30トン未満）によるスルメイカの月別の水揚げ動向を図1に示しました。平成27年の1月～6月までの水揚げ量は797トンで、同期間で比べると、前年（454トン）・近年平均（468トン）を上回りました（前年比176%、平年比170%）。

島根県沖での今後の漁場形成は例年10月以降になると考えられますが、日本海スルメイカ長期漁況予報でも指摘されているように近年はスルメイカが沿岸寄りに来遊しにくい傾向が強くなり、本県では特に平成21年以降、10月～12月の漁獲量の落ち込みが顕著です（図2）。平成25年・26年は若干まとまった漁獲がありましたが、今期の予報でも西部日本海では好漁場が形成されにくいとされ、島根県沖での漁況は低調に推移する可能性が高いと考えられます。

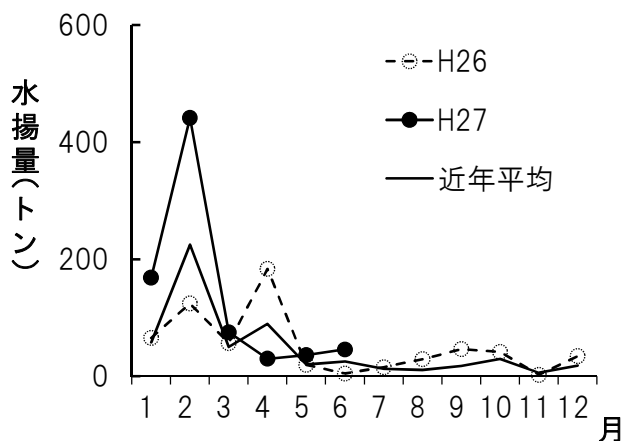


図1 主要3港（浜田、恵曇、西郷）におけるスルメイカの水揚げ動向（浜田、恵曇は属地統計値、西郷は属人統計値）

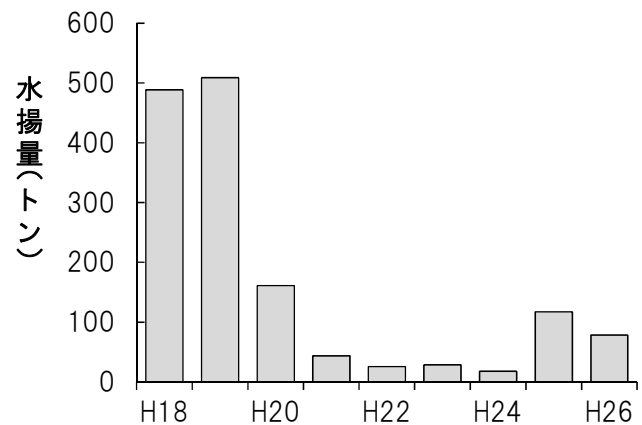


図2 主要3港（浜田、恵曇、西郷）における10月～12月のスルメイカの年別水揚げ動向（浜田、恵曇は属地統計値、西郷は属人統計値）

※本文中で引用した情報元

- 1) 国立研究開発法人水産総合研究センター「平成27年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報」平成27年7月27日 (http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr27/20150727_n/20150727-n.pdf).
- 2) 国立研究開発法人水産総合研究センター「平成27年度第1回太平洋スルメイカ長期漁況予報」平成27年7月27日 (http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr27/20150727_t/20150727-t.pdf).
- 3) 国立研究開発法人水産総合研究センター「平成27年度第2回日本海海況予報」平成27年7月6日 (http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr27/20150706_n/20150706npress.pdf).